



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2017年9月発行（第89号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

- ◎巻頭メッセージ：「平安を預言する預言者」 エレミヤ
- ◎時代を悟る「異教的な祈り」 H.F
- ◎お知らせコーナー 「本の紹介」

[巻頭メッセージ]

「平安を預言する預言者」 by エレミヤ

エレミヤ28:8 昔から、私と、あなたの先に出た預言者たちは、多くの国と大きな王国について、戦いとわざわいと疫病とを預言した。

28:9 平安を預言する預言者については、その預言者のことばが成就して初めて、ほんとうに主が遣わされた預言者だ、と知られるのだ。」

本日は「平安を預言する預言者」という題でメッセージしたいと思います。今の時代の多くの教師、預言者が「平安を預言する預言者」となってしまった、ということを見ていきたいと思います。テキストに沿っていきましょう。

<主の預言者は平安でなく警告を語る>

「昔から、私と、あなたの先に出た預言者たちは、多くの国と大きな王国について、戦

いとわざわいと疫病とを預言した。」

ここでエレミヤが語っているように、主に遣わされた預言者は、原則として「戦いとわざわいと疫病とを預言」するものなのです。神が預言者を送ることには意味があり、それは民の逸脱や背教、そしてそれにとまなう「戦いとわざわいと疫病とを預言」するものであり、決して民へおべっかを使ったり、賞賛を受けるために預言者を送るわけではないのです。

たとえていえばこんなことでしょうか。町を消防自動車サイレンを鳴らして走る、その理由は町のどこかで火災が起きていたり、災害が起きているからです。決して人をほめたり、善行を表彰するために走っているわけではないのです。

神が預言者を送るのも同じです。神は民への災い、すなわち、「戦いとわざわいと疫病とを預言」するために預言者を送られるのです。

<平安を語る預言者は間違えることが多い>

次の節を見ましょう。

「平安を預言する預言者」 by エレミヤ

「平安を預言する預言者については、その預言者のことばが成就して初めて、ほんとうに主が遣わされた預言者だ、と知られるのだ。」

平安を語る預言者という存在は神の視点、聖書の視点からいうなら例外的な存在である、ことが書かれています。そのため、そのような平安の預言とは原則として眉唾ものであり、その預言者のことばが成就するまでほんとうに主が遣わされた預言者である、とは認められないことが書かれています。ですので、平安を語る預言に関してはそのまま受け入れるというより、吟味、確認が必要なのです。

<エレミヤの時、平安を語る預言者の預言は外れた>

このように平安を語る預言者に関しては、要注意であり、盲目的に受け入れるべきでないことが書かれています。このことは本当でしょうか？確認してみましょう。このエレミヤの時、平安を語る預言者ハナヌヤが立ち上がりました。そして彼は民に対して以下のように平安を預言したのです。

エレミヤ 28:10 しかし預言者ハナヌヤは、預言者エレミヤの首から例のかせを取り、それを砕いた。

28:11 そしてハナヌヤは、すべての民の前でこう言った。「主はこう仰せられる。『このとおり、わたしは二年のうちに、バビロンの王ネブカデネザルのくびきを、すべての国の首から砕く。』」そこで、預言者エレミヤは立ち去った。

このハナヌヤの預言は積極的な預言であり、民に希望を与える平安の預言でした。これを聞いた民も王も喜んだでしょう。しかし、この平安を語る預言は神から来たものではありませんでした。以下を見てください。

エレミヤ28:15 そこで預言者エレミヤは、預言者ハナヌヤに言った。「ハナヌヤ。聞きなさい。主はあなたを遣わされなかった。あなたはこの民を偽りに投げ頼ませた。

28:16 それゆえ、主はこう仰せられる。『見よ。わたしはあなたを地の面から追い出す。ことし、あなたは死ぬ。主への反逆をそそのかしたからだ。』」

28:17 預言者ハナヌヤはその年の第七の月に死んだ。

ここに書かれているように平安を語り、民を喜ばせたハナヌヤの預言は神からのものではなく、逆にこれは神への反逆をそそのかすものだったのです。そして平安を語る預言者ハナヌヤは、自分の偽りの預言の罪を死をもって償ったのです。

<主イエスの時も平安を語る預言者のことばは成就しなかった>

主イエスの時にも反逆の都、エルサレムに対して厳しい警告の預言すなわち「戦いとわざわいと疫病」が預言されました。以下のとおりです。

ルカ19:41 エルサレムに近くなつたころ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、

19:42 言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。

19:43 やがておまえの敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ、

9:44 そしておまえとそこの中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない

「平安を預言する預言者」 by エレミヤ

日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」

この主のことば、都への戦いと滅亡を語ることばが、エルサレムに対する正しい神からの預言であり、警告なのです。それはこの背教の都に対して平安を語るものではありませんでした。そしてこの厳しい預言は40年後のローマによる攻撃により実際に成就しました。

さてこのような主の警告に反してその当時の宗教指導者である律法学者や、パリサイ人などは決して民に厳しい警告など与えていなかったようです。逆に平安を語っていたように思えます。それで、主は以下の様に群集に対して語りました。

ルカ12:56 偽善者よ、あなたがたは天地の模様を見分けることを知りながら、どうして今の時代を見分けることができないのか。

12:57 また、あなたがたは、なぜ正しいことを自分で判断しないのか。(口語訳)

ここで主は「あなたがたは、なぜ正しいことを自分で判断しないのか。」と語りました。いわんとしていることはこうでしょうか。何故この時代がどのような時代であるかとの正しい「判断」を他人に任せるのか。何故パリサイ人や、律法学者のいう「平安」のことばを鵜呑みにして今の時代を自分で悟らず、神の怒りの時を自分で悟ろうとしないのか、そういわれていると理解できます。

この主の指摘は正しく、エルサレムにはその後、平安や祝福が来たわけではなく、逆に神への反逆の都として徹底的な滅びが起きてきたのです。この時代においても平安を語る預言は神から来たものでないことがわかるのです。

＜艱難前携挙説とは民に平安を語る預言＞

さて、話題を今の時代に移しましょう。今の時代にあっては教会の中に多くの平安を語る教師、預言者が存在します。その最たるものは艱難前、2段階携挙説を語る人々です。艱難前携挙説は以下の様に民に対して平安を語ります。

1 クリスマスは終末の艱難時代を経過しない、その前に挙げられると説く

2 反キリストが登場する時、教会はこの世に存在しない、したがって反キリストによる害をクリスマスが受けることはないと言説く

3 ダニエル書の「1週の契約」とは、中東の7年の平和条約である、したがってクリスマスとは関係ない、と言説く

しかし、これらはみな、聖書に基づかない偽りの教えであり民に根拠のない平安を与え偽りにより頼ませるものなのです。事実とは以下のとおりです。

1 正しいクリスマスは艱難を経過する

2 反キリストは背教の教会の真ん中でキリストを追い出し、「自分こそ神である」と宣言する。クリスマスと無関係の存在ではない。



エレミヤのかせを外すハナヌヤ

「平安を預言する預言者」 by エレミヤ

3 ダニエル書の「1週の契約」とは、反キリストと背教クリスチャンとの間で交わされる契約。この契約を結ぶことによりクリスチャンが神との間で結ばれていた永遠の命に関する契約は破棄される。

このようにして聖書の大事な警告が艱難前携挙説の「平安を語る預言」により、無効にされ、民が偽りにより頼むようになることがわかるのです。

< 艱難前携挙説の預言は成就しない >

聖書は前述のように「平安を預言する預言者については、その預言者のことばが成就して初めて、ほんとうに主が遣わされた預言者だ、と知られる」ことを語ります。

その預言が成就する、しない、ということがその判断の基、基準なのです。この視点から考えるに艱難前携挙説の現状はどうでしょうか？残念ながら、艱難前携挙説の歴史はまた預言が外れる歴史でもあるのです。いままで何度も艱難前携挙説者はキリストの再臨を預言し、そして見事に外してきました。

たとえば、3000万部を超えるベストセラー「今は亡き大いなる地球」(The Late Great Planet Earth)を書いた艱難前携挙説者ハル・リンゼイを見てみましょう。彼は以下の預言をしています。

- 1 ソ連が反キリストの国になる
- 2 キリストの再臨が1988年までにある
- 3 1980年代にハルマゲドンもしくは艱難時代が起きる

これらの預言はすべて外れています。そしてハル・リンゼイに限らず、艱難前携挙説者の預言はみなことごとく外れてきています。

< 結論：艱難前携挙説は神から来たものではない >

これらの事実を通して艱難前携挙説、2段階携挙説は明らかに神からのものでなく、また聖書の原則から外れていることがわかります。すなわち：

- 1 それは平安を語る預言であり
- 2 その預言は成就せずことごとく外れてきた

< 黙示録は平安を語る預言書ではない >

今まで見てきましたように、神から使わされる預言者の預言は平安を語るものではありません。逆に来るべき災いや、警告を語るものなのです。このことは、終末の預言書である黙示録に関しても同じです。黙示録の原則、それは教会に根拠のない平安を語るものではなく逆に終末の日の背教の教会に来たらんとする戦いや災いを預言するものなのです。そしてそれはまた聖書の原則に合致しているのです。

このことの例として少し黙示録のテキストを見ましょう。以下の黙示録の預言はみな、教会に来たらんとする災いを警告するものです。

黙示録6:3 小羊が第二の封印を解いた時、第二の生き物が「きたれ」と言うのを、わたしは聞いた。

6:4 すると今度は、赤い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、人々が互に殺し合うようになるために、地上から平和を奪い取ることを許され、また、大きなつぎを与えられた。

この箇所を少し解説して見ます。赤は火の色であり、火は霊的なことがらのたとえです。

「平安を預言する預言者」 by エレミヤ

ここに書かれているのは、これから聖霊の第3の波のようなリバイバル現象が教会にさらに盛んに起きてくるということです。そしてその霊はいずれ、教会内に分裂や争いをもたらすということの預言です。以下の主のことばが成就する日について書かれているのです。

ルカ12:49 わたしが来たのは、地に火を投げ込むためです。だから、その火が燃えていたら、どんなに願っていることでしょう。

12:50 しかし、わたしには受けるバプテスマがあります。それが成し遂げられるまでは、どんなに苦しむことでしょう。

12:51 あなたがたは、地に平和を与えるためにわたしが来たと思っているのですか。そうではありません。あなたがたに言いますが、むしろ、分裂です。

12:52 今から、一家五人は、三人がふたりに、ふたりが三人に対抗して分かれるようになります。

12:53 父は息子に、息子は父に対抗し、母は娘に、娘は母に対抗し、しゅうとめは嫁に、嫁はしゅうとめに対抗して分かれるようになります。」

何故聖霊が地に投げられると地上に争いが起きるのでしょうか？その理由はお互いの霊が異なるからです。神の霊が下る時、神以外の霊に導かれる人々との対立や争いが起きます。それはたとえば、ペンテコステの日にも起きました。ペンテコステの日には神の聖霊が下りました。その霊が下ることにより、神の民であるユダヤ人たちの間に平安と一致が起きたかというところというわけではありませんでした。逆にそのペンテコステの火を契機にエルサレムでは論争やら争い、敵対が起きました。正しい聖霊を受けたペテロやヨハネたちは迫害され、またステパノは殉教しました。何故か？それは神の霊が下る時、他の霊に導かれるパリサイ人や祭司などの人々が

反発し、敵対し、また殺意さえ抱くようになるからなのです。このことはペンテコステの日に起きました。そしてこの終末の日、赤い馬で預言される日に再現するのです。そうです、この預言はキリスト教会に起きる平安を預言したものではなく、逆に背教の教会の中で争いや分裂、さらに正しいクリスチャンへの殺害さえ起きることを預言する警告の預言なのです。

さらにもう一節みましょう。

黙示録 6:5 小羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が、「来なさい。」と言うのを聞いた。私は見た。見よ。黒い馬であった。これに乗っている者は量りを手に持っていた。

6:6 すると私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の間で、こう言うのを聞いた。「小麦一拵は一デナリ。大麦三拵も一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」

黒は白い義の衣と対照的な色であり、罪や死をたとえます。それでここに書かれているのは教会に罪や死が蔓延する日への預言です。そしてそれらの罪にともない、小麦や大麦すなわち、神のことばが貴重品となり、高い価値を払わないと買えないものとなることが預言されています。また、オリーブ油とぶどう酒すなわち、聖霊の働きに害が加えられる日がきます。このように黙示録は背教の教会に対して 来たらんとする戦いや災いを語るものなのです。正しく悟りましょう。以上



黙示録の4匹の馬

時を見分けなさいと主イエスはいわれました。今はどのような時代なのでしょう。

第二列王 16 : 9 ~ 12

アハズ王がアッシリアの王ティグラテ・ピレセルに会うためダマスコに行ったとき、ダマスコにある祭壇を見た。すると、アハズ王は、詳細な作り方のついた、祭壇の図面とその模型を、祭司ウリヤに送った。

祭司ウリヤは、アハズ王がダマスコから送ったものそっくりの祭壇を築いた。祭司ウリヤは、アハズ王がダマスコから帰って来るまでに、そのようにした。

王はダマスコから帰って来た。その祭壇を見て、王は祭壇に近づき、その上でいけにえをささげた。

第二列王 16 : 14

主の前にあった青銅の祭壇は、神殿の前から、すなわち、この祭壇と主の神殿との間から持ってきて、この祭壇の北側に据えた。

かつてのユダの王、アハズはダマスコの異教の祭壇に似せて大祭壇をつくり、本来の青銅の祭壇を移動させ、異教の祭壇でいけにえを捧げるようしました。祭司ウリヤもその命令を実行し、宗教指導者が、異教の祭壇を神に神殿に置きました。祭壇をすげ替えたのです。

いけにえを違う方法でささげる。神様が決められた祭壇ではなく勝手に自分たちが異教の祭壇を取り入れ、いけにえを捧げ祈る。これは祈りのかたちがすり変わる。神殿の場所は同じですが祭壇を異教の祭壇に代えてしまった。これは祈りが異教的なものにすり替わり、変質している、ということです。祈りが異教の物とのブレンドされる・・・。異教的祈りの変質が起こっているのです。

聖書は私たちに訓練し、教えるためにあり、旧約の出来事は新約の型であると言われていきます。そうであるならばこれは、過去のことで済むのでしょうか。

今のアメリカのプロテスタント教会における祈りの変質について、警鐘を鳴らしている人々がいます。残念なことに異教的な祈りは現在のキリスト教会の中でもなされているのです。

例えば、現在アメリカのプロテスタント系の大学や神学校などキリスト教の高等教育機関の90%がスピリチュアルフォーメーション Spiritual Formationという(精神的な形成)をプログラムとして取り入れています (lighthouse trailsより)。

霊的形成のプログラム (Spiritual Formation)はカトリックの瞑想的な祈り、沈黙、瞑想、創造的表現、ヨガなどさまざまな宗教の精神的慣習を取り入れることを奨励しています。そして最も一般的な霊的方法は、カトリックや神秘主義や他の宗教から用いられていますが、聖書に耳を傾ける形のように再ブランド化されています。(Christian research serviceより)

このように他の宗教の方法はわからないように、聖書的に見えるよう加工されているのです。

まさにアハズ王が祭壇を異教の祭壇に取り換えたようなことが起こっています。このように異教の祈りの方が、現在多くの神学校やプロテスタント系の大学で取り入れられているのです。

同じく、カトリックの瞑想的祈りなどの神秘主義的な祈りの方を、多くのプロテスタント教会も取り入れるようになっています。レイ・ユンゲン (Ray Yungen) は Lighthouse trailsで「カトリックと福音教会の間に存在していた神学的な障害にもかかわらず、伝道者はカトリックの瞑想的伝統を益々受け入れてきました。」と述べています。

瞑想的な祈りの著名な助言者である修道士トーマス・マートン (Thomas Merton) は、ヒン

時代を悟る「異教的な祈り」 H.F

ズー教の修道士の影響を強く受けている、とカトリックの神学者ヘンリ・ナウエン (Henri Nouwen) は著書「Pray to Live」で述べています。

また、ヘンリ・ナウエン (Henri Nouwen) はプロテスタント教会の指導者たちの間で人気があり、かなり前ですが、1994年の米国のプロテスタント教会指導者3400人の調査で彼は、ビリー・グラハムついで第2位にランクされています。ナウエンはプロテスタント教会指導者には多くの影響を与えています。

しかしレイ・ユンゲン (Ray Yungen) はナウエンについて「ナウエンは、ヒンズー教の霊的な教師である Eknath Easwaran によるマントラ瞑想の本を支持しており『この本はわたしを大いに助けてくれました』と述べています。～～また、彼はキリスト教ロヒンズー教の霊性を混ぜ合わせた本の序文を書いています。

～～著書は仏教、ヒンズー教、イスラム教の宗教のギフトに開放的な考えをしています。

～～ナウエンは、『すべてが一つです。』と述べており、これは凡神論的な神概念です。」と述べています。こうしてみるとはたしてナウエンは聖書的な信仰を持っているのでしょうか。

カトリックの伝統的な瞑想的な祈り、セントリングの祈りなどは、東方的な思想の影響が多くあり、東洋思想で用いられている方法と同じです。その特徴は、沈黙の中で神を待つ、思想を停止させる、沈黙の中で神の存在を求める、内面の静けさを進める、そして祈りの繰り返しを通して心を空にする、といったものです。これらの祈りの方法を主イエスは教えられたのでしょうか。聖書にはどこにも示されていません。異教的な方法で霊的なものを求めていくなら、それは聖霊ではない違う霊が働くようになります。

このような異教的な影響の大きいカトリックの祈りの方法を、プロテスタントが取り入れているのです。あきらかに祈りが異教的なものに変質しています。

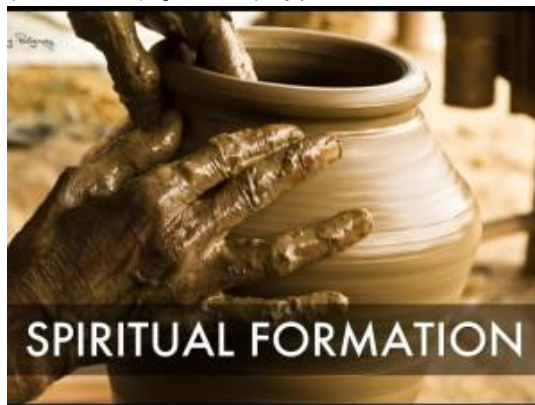
では異教的な祈りについて、主イエスはどのように言われているのでしょうか。

マタイ 6 : 7

また祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただくり返してはいけません。彼らはことば数が多ければ聞かれると思っているのです。

主イエスは、異邦人のような祈りをしてはならないと言われました。異邦人の祈りの特徴は、同じ言葉を繰り返すとイエスは言われています。同じ言葉を繰り返す呪文のような祈りが異邦人の祈りです。そして瞑想的祈りやロザリオを用いた祈りなど、神秘主義的なカトリックの祈りは、同じ言葉を繰り返して祈る方法が用いられています。

これはまさにイエスのいわれる異邦人の祈りといえるのではないのでしょうか。今は、祈りが異教的なものに変質しつつある危険な時代なのです。時を見分けなければなりません。



spiritual formation

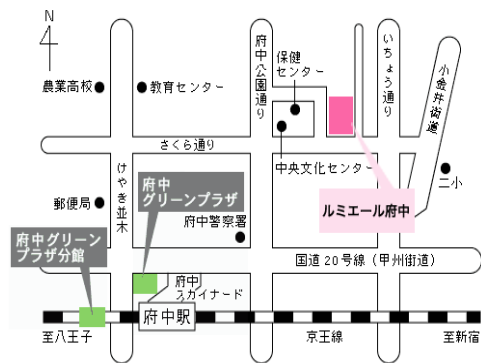
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
 午後 14:00-16:00
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
 (tel:042-360-3311)
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>